

## 技術開発事例

共同研究

# 『人にやさしい器』カルテの制作

【共同研究先】

ひとにやさしいうつわ開発研究会

### 【開発の背景】

ひとにやさしいうつわ開発研究会（平成 21 年 5 月発足）では、障害や加齢による身体機能低下の有無にかかわらず、その人に合った使いやすい器（人にやさしい器）の研究を行っています。

「人にやさしい器」実現の為には、障害者施設利用者を対象としたモニタリングにより、障害の症状と器の形状との関連性や使い勝手について考察することが不可欠です。また、こうした事例を蓄積し、遠隔地からの注文にも対応できる体制を整える必要があります。



(写真：作家検討会の様子)

### 【開発の経緯・支援内容】

障害者支援施設「愛正園」（高萩市）の協力によりモニタリングを実施しました。この結果を基に、今後の開発につなげる為のデザイン案や症状と形状との対応表（カルテ）を作成しました。モニタリングでは器の深さや反り返り等の形状について考察しました。



(写真：モニタリング対象商品の例)

### ■モニタリング実施内容

対象者…愛正園利用者 5 名

対象商品…モニター商品 23 点（皿 8・小鉢 5・コップ 10）

実施期間…商品 1 点につき約 1 週間（約 3 ヶ月）

実施方法…昼食時に介助者による聞き取り調査を行う。

### 【結果】

モニタリング実施結果をもとに、以下の項目を行いました。

①モニタリング結果の考察

②デザイン案制作

重さ・深さなどの課題約 10 項目を検討しました。

③症状と形状との対応表（カルテ）の提案

被験者の症状と食器の形状の対応表（カルテ）を制作し、今後の開発に活用する知見を蓄積しました。

■新聞掲載：1/8(毎日)，1/10(朝日)，1/16(毎日)

No		OS		作成日 平成21年〇月〇日	
品名	〇〇皿	柄種	〇〇〇〇		
規格	〇〇皿	規格地	〇〇〇〇		
主な症状	◎スプーンやコップを持ち上げることが困難であり、器やコップに押し当てて食べている。 ◎鉛筆など細いコップの柄に引っかき、器が壊れる。 ◎軽微な症状となく、丸呑み状態である。				
基本情報	項目	平成21年度			
食器種	碗口/杯盤	碗口			
	皿	二重皿			
	手洗	コップ			
	水筒	洗剤容器			
使用状況	食卓	◎スプーン			
	食卓	◎コップ			
介助状況	使用回数	トロー			
	使用回数	一部介助			
検査時の状況	種類/テーブル	前座			
	場所	やや困難			
	碗口/杯盤	やや困難			
	皿	やや困難			
検査結果	検査結果				
製作者	協力者が多く、器、もの代り替えしている				
相談者(受注者)	様々にてご相談下さい				
備考	PCR、30枚				
本調査実施	検査状況(検査)終了について				
生産/仕切り	検査				

(写真：カルテ試作例)

### 【今後の展開】

今後、制作したカルテを更に充実させることで、制作工程における発注者と制作者との情報の共有化が可能となります。これにより、遠隔地からの注文にも速やかに対応可能な受注体勢の構築につながります。

### 基礎となった事業

平成 21 年度 オンリーワン技術開発支援事業（共同研究）

テーマ名「新しい笠間焼の方向性を探る為の『ひとにやさしい器』の開発」

### 担当部門

工芸技術部門

技 師 望月 聡美

部門長 佐藤 茂

tel : 0296-72-0316

材料技術部門

所 長 鷺野谷 昇